

チュートリアル課題 白い赤ちゃん

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031817

2012年度 Block. 6

課 題 No.2

課題名：白い赤ちゃん

課題作成者：母子総合医療センター 戸津 五月



電卓で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

2012-B6-T1-2
白い赤ちゃん

シート1

鈴木由花さんは緊急帝王切開で赤ちゃんを出産しました。在胎期間35週2日、出生体重 2,320gの女の子でした。

シート2

出生1分後、5分後の赤ちゃんの状態はそれぞれ以下のようでした。

1分後：自発呼吸はなく、心拍数は80回/分でした。四肢はだらんとしており、分泌物を吸引するため鼻腔内吸引をしても、反応はありませんでした。皮膚色は全身蒼白でした。新生児科の山田先生は、ただちに蘇生を開始しました。

5分後：元気に泣き出しました。心拍数は160回/分で、いくらか四肢を屈曲していました。鼻腔内を吸引したときに咳き込みました。皮膚色は四肢末梢のみにチアノーゼが見られました。搬送用保育器内に酸素を投与し、手術室からNICUに搬送しました。

シート3

NICU入院時は、脈拍 172 回/分、呼吸数 70 回/分、血圧 60/42 mmHg、体温36.8 °C、SpO₂ 97 %でした。体色は白く、陥没呼吸がみられます。保育器に入り、酸素投与が始まって、赤ちゃんの四肢末端のチアノーゼは改善してきましたが、体色は白いままでした。

鈴木由花さんの赤ちゃんはいくつかの検査を受けました。ご主人の一郎さんが面会したときには、体にたくさんの機器や点滴がついていました。山田先生から「常位胎盤早期剥離による影響が見られています」とお話がありました。

シート4

日齢1になって多呼吸はなくなり、血液ガス所見も改善しました。由花さんが面会したとき、赤ちゃんの体色はピンク色で、元気に泣いていました。赤ちゃんが寝始めた時、胸郭の動きがなくなり、体の色が真っ青になって、モニターのアラームが鳴ったので、由花さんはびっくりしました。

シート5

日齢2になって、由花さんは赤ちゃんの顔面が少し黄色くなっていることに気がきました。山田先生はお母さんに、今日から母乳を開始すること、わずかに心雑音が聴取されること、本日の検査結果について説明しました。

シート6

日齢5になって、心雑音は聴取しなくなりました。哺乳量も徐々に増量されています。鈴木さんの赤ちゃんは、さやかと名付けられました。

3週間後、さやかちゃんは体重も増え、ミルクもよく飲んでいきます。休日には一郎さんが面会にきて、沐浴の練習をしています。山田先生から、そろそろ退院しましょうとお話があり、鈴木さん夫婦はその日を楽しみにしています。